

【授業実践後の振り返り】 発見！私たちのテキサス (第2章 自分とかかわりのある地域と人々の暮らし) (7時限)

※文章中、①②③は以下の児童を示す。

- ①当該学年程度に読み書きができる
- ②支援があれば当該学年程度の読み書きがおよそできる
- ③取り出し指導が必要、または在籍学級で別課題など特に配慮された支援を受け、ある程度の読み書きができる

時限	内 容	活 動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
0 時 限	学習課題 の発表・ 確認	<ul style="list-style-type: none"> ●2章でどのようなものを作成するのかを知る。 ●作成したものを、どこでどのように発表するのかを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・覚えて、暗記して、テストをする以外に、何か目標があるということは新鮮だし、これからやることに対して、子供達の動機づけになった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・興味を示した。「現地校でもやったことあるよ」組は、滞在期間が長い生徒達。「初めてやる」組は、最近日本から来た生徒達の方が多かった。
1 時 限	学習課題 をつかむ 学習計画 をたてる	<ul style="list-style-type: none"> ●学習計画を立てる(国語科P94, 95) <ul style="list-style-type: none"> (1) 調べることを決める (2) 調べる (3) ほうこく書の型を確かめ組み立て方を考える (4) 調べて分かったことをほうこく書とポスターに書く (5) 書いたものを読み合う(発表会) ●自分で調べて報告書を書くときの観点を、国語の教科書を参考に、第1章のクイズをふりかえりながら考える。 <ul style="list-style-type: none"> ◎大きな課題を考える(シートに記入) ◎調べることを決める(問い → 答え) <ul style="list-style-type: none"> ○なぜ → 理由 ○どのように・どのようにして → 仕組み・成り立ち・方法 ○いつ・いつから → 時 ○どこで・どこ → 場所 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画の毎回の提示と、学級便りで、保護者にお知らせすることが不可欠だった。授業を欠席した場合に、「何を家で補えば良いか」「それは何のためなのか」がしっかり伝わると保護者も子どもあまり難しく学習についてこられる。 ・国語の「研究レポートを書く」単元とうまくリンクできたと感じた。 ・具体的に、「大きな課題」から、「問い」を立てるという作業を授業内に扱うことができて良かった。家庭で「親と子ども」の関係で作業を進めると、親の言いなりになりがちだと思うが、学校で自由に自分の発想を膨らます機会があるということは大切だと感じた。 ・③のように日本語力があまりに低い子どもには難しい課題だが、②③の日本語力をもつ子どもたちには、こういった場面を体験するこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1章でテキサス州のクイズ大会をした時と重なる部分があった。クイズ大会の時に調べた内容が難しいものが多かったので、ここでも難しいことを考え過ぎたり、「大きな課題」からではなく、もうすでに答えを知っているところから取り組もうとする子どもがいた。 ・同じくテキサス州のクイズ大会の時に、ポップコンーンウェブのワークシートなどで、自由に大きな内容を出す段階を設ければ良かったと思った。第2章の導入でも再度、「もっと身近なところから入っていいよ。」と発想の取り掛かりの部分を丁寧に指導すれば良かった。 ・第1章と学習内容が重なることに抵抗を感じる子どももいた。第1章のクイズの答えから、逆に問い 	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに取りかけられる子ども、なかなか取りかけられない子ども、と様々だった。お互いにやっていることから、ヒントを得たりしていた。 ・大人の考えるような難しい課題の問いを立てようとすると、子ども自身ではなかなか調べられないことも出てきた。 ・一斉に説明しても、子どもたちは、「じゃあ、自分はどうすればいいの?」となかなかピンとこない子どもたちが数名見られた。(多くは②③の子どもたちだった。)

			とは大事だと思う。	を探すことに戸惑った子どもも何人か見られた。 (このような子どもは親に「何を学習しているか？」の説明ができず、メールでの説明が求められた。) ここはもっと時間をかけて一人ひとり丁寧に説明すべきだった。	
2 時 限 +1~2 時 限)	調べる・ 調べたこ とをまと める。	<ul style="list-style-type: none"> ●「調べ方」を確認する。(国語科教科書 P97 等) ●観点・ワークシートに沿って、自分の選んだ地域の「特色やよさ」を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「問い」の「答え」になる事柄を調べる。 ●ワークシート A で調べてきたことを整理する。 ●第 2 章で学ぶ社会科の語彙・表現を「使ってみたいことば・表現」として提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新しい表現や言葉をまとめられて、ワークシートに示してあったので、課題を進めるうえで参考にしやすくして効果的であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●小学 4 年生には、文字と行の間隔が小さいかと思うが、1 枚で全体を見渡せるのは良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●始めは、取り組まなければいけない目の前の課題が大きすぎる印象を持った子どももいた。 ●ワークシート B の記入を大変がっている子どもがいたが、それでも「手が痛い。」と言いながら、時間一杯取り組んでいた。 ●クラス内で誰かが頑張っている姿を見ると、「じゃあ、僕も/私もやろうかな。」となるので、そこが「学校に来る意味」のあるところだと思った。 ●実際に書き始めるとワークシートの行の多さに不安を持つ子どもがいた。 ●自分の思うように書くと、社会科の語彙や表現を使える場面が意外と少ないと思った。
3 時 限 (+1 時 間?)	調べたこ とを報告 書に書く	<ul style="list-style-type: none"> ●報告書の書き方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題(問い)に対して調べて書く(答え)。 ・「報告書の型」(国語科教科書 P100)に沿って書く。 ・特産品やよさを表現したり、報告書に使われる「使ってみたい表現」を知る。(別資料参照) ●書き方に沿って、記述する。 		<ul style="list-style-type: none"> ●様々な説明部分で、紙での拡大版を使用する代わりにデジタル教科書を活用できると良いと思った。その方が視覚的に見やすく、子どもたちの理解も高まるかもしれない。 ●今後はデジタル教科書を積極的に併用していきたい。 ●子どもに伝える情報量が少し多 	<ul style="list-style-type: none"> ●書き方に関する情報が多く、子どもたちの中には、始めから「分からない、」と引き気味になっていた様子もあった。 ●自分の分を書き上げた後に、友達の方を見に行っていた。 ●調べたいことが思ったように検索できない子どもが多かった。ア

				いと感じた。教えたい内容を絞っていかないと②③にはきつかった。	ドバイスはしたが、実際テキサスのことは英語で調べるしかなかったので、的確な指導ができなかった。
4 時 限	ポスターを作成する	<ul style="list-style-type: none"> ●ポスターの書き方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・報告書を写すのではなく、話だけではわからない事柄や説明しにくい事柄、あると分かりやすくなるものをポスターで示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・まずレイアウトと何を記述・添付するかを決め、時間まで作業をし、あとは宿題にする。 ・できるだけわかりやすくするよう、写真、絵、表、グラフ等を使うようにする。また、色使いや構成にも注意する。 ●書き方に沿って、ポスターを仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ポスター見本を示すことで、「調べた内容をただ単に書き込むことが目的ではない」と、子ども達に伝わったと思われるので効果的であった。 		
5 時 限	ポスターセッションのやり方を確認し練習をする	<ul style="list-style-type: none"> ●ポスター発表の場の設定、セッションの流れ、発表の注意事項、聞く側時のポイント、等を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 【場の設定】 教室の場合は、前面以外の壁面に6～7枚貼る。(別会場?)机・イスは中央にまとめて置く。(ポスター前にスペースを作る) 【セッションの流れ】 <ol style="list-style-type: none"> 1 今日の学習内容と目当ての確認、セッションの確認 <10分> 2 セッション1<30分> (セッション10分×3セッション) 発表:5分、質疑・意見・感想:2分、カード記入・移動:3分 3 セッション2<30分> 同上 4 休憩<5分> ⑤ ふりかえり<20分> ●各自、ポスターの前で発表練習をする。 ●オーディエンスカードの記入の方法と聞くときの観点を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●練習に1時間かけたので、ポスターセッション当日は慣れていた様子。 	<ul style="list-style-type: none"> ●練習に5分-2分-3分(一人発表10分)は必要なかった。 ●発表には2分くらいかければ十分だった。質問も1分ぐらいでよかったかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●それぞれに、手順に沿って練習ができた。 ●練習をしている間に気づきがあった子どもは、家でポスターや原稿を直し、次週の本番に臨んでいた。
6・7 時 限	自分の調べたことを発表したり、友だちの発表を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ●自分が調べたことを、報告書とポスターで発表する。 ●発表を振り返り学んだことを確認する。 ●自分の調べた地域と他の地域の特色やよさを比較する。<ふり返し> 	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者が消極的で始めはお客さんになってはくれなかった。慣れてくると、大人と子どもの交流があり活性化して良かった。保護者からの質問に、子どもが一生懸命答えてい 	<ul style="list-style-type: none"> ●ポスターセッションの本番では報告は4分あれば十分だった。設定の発表10分では間がもたなかったなので、途中で短くした。 	<ul style="list-style-type: none"> ●緊張していたが、家庭で練習してきた様子がよく伺えた。子どもたちそれぞれに、達成感があったと思う。

<p>発表会をふりかえり、学習したことを確認するとともに、自分の調べた地域と他の地域の特色やよさを比較する。</p>	<p>1 友だちの発表を聞いて、ふりかえりシート（別資料参照）に記入する。</p> <p>2 班、学級で、ふりかえりシートをもとに話し合う。</p> <p>3 学習感想・ルーブリック評価を書く</p>	<p>た。盛んな交流があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段は大人とのフォーマルな接触がないので、どの日本語レベルの子供たちにとっても良い機会になった。 ・②が、今日はずっとしゃべれた。人に聞いて貰えて嬉しかった。 ・③でも活躍できた。普段はほとんど日本語で話さない子どもたちでもずっと話していた。日本語力が向上したか？は定かでないが、人前できちんと話せただけでも効果あり。 ・大人にとっては同じことの繰り返し（セッションの練習と本番）だが、子どもにとっては1回1回が別々のもの。それを訓練することにより、②③の子どもたちにとっては日本語で話すことの自信が生まれる。現地型の子どもたちには有効だと感じた。 ・発表の回数を重ねたことで、自分が何を話したいかが次第に分かり、そこに重点を置いて発表できるようになった。 ・日本語上達のために「日本語を練習せよ。」では、なかなか上手にならないが、今日のような発表を通して訓練を何度もすると、話し相手が変わるたびに発表者が工夫をするので日本語のバリエーションが増え、日本語上達へと繋がる。 ・自分たちが住んでいるテキサス州についての知識が深まり、また、さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表は原稿を棒読みする子どもが多く、臨機応変にふくらませることは困難そうだった。 ・発表者の人数が多くて教室がうるさくなった。それよりは発表者を少なくして、聞く人数を増やす方が良いのではと感じた。教室のいたるところで発表していて聞こえにくかったのではと思う。全体的に雑然としていた。 ・発表1名に対して聞く人3名のバランスが良いと思う。 ・練習で発表1名に対して聞く人6名でやった時のほうが、聞く人からのアドバイスが盛んに出たりして良い発表だった。 ・「発表者1名対聞く人1名」は発表者にとって緊張感がなかった気がする。 ・指導者として、発表時にすべての子どもについて細かく観察することができなかった。 ・補習校でこういった授業をするためには、どうしても宿題を出すことになる。そのことについて若干の懸念もある。 →①は何をやらせても自分でできるので家庭での負担はないと思う。一方で、「創意、工夫」を忘れがちになりやすい。 →②③は結局家庭でテコ入れ（親が書いて仕上げたケースあり）しないと報告書の完成は難しかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・前週のクラス内練習中に、教師側から様々な発表時のアドバイス（ゆっくり伝わるように、相手を見て、ポスターを差しながら、ポスターはわかりやすく）をしていたのだが、それらを改善する時間はあまりなかったようだ。ポスターセッション当日になって、実際に自分の発表をした後で、自ら気づきが出てきた。 ・「ふりかえりシート」に「できた」評価項目が欲しいと子どもたちの希望の声があった。 ・「ふりかえりシート」での自己評価が低い子どもたちが多い印象。日本人的な自己評価（それが美德）と思われる。現地校と補習校における自分自身の評価の違いに戸惑っている感じを受けた。（「よくできた」とする児童も多かったので、一概には言えないかもしれない） ・「ふりかえりシート」内、2と3の項目が似ていて分かりにくく、記入しづらそうだった（子どもたちから「どうやって書くのか？違いは？」と質問あり）。 ・「ふりかえりシート」内、2について「地域」と限定しているので、答えにくそうだった。 ・振り返りシート内で、子どもたちからは「がんばった！」の声が多く書かれていた。
--	--	--	---	---

			らに興味を持って調べて見たいという意見が多かった。	<p>ようだ。しかし、発表時は漢字に振り仮名をふったものを一生懸命読む（話す）練習をしてきてあったので、よくできていた。</p> <p>・親の支援を前提としての日本語学習なのか、について疑問に残った。</p>	
--	--	--	---------------------------	--	--

◆日本語力に課題があると思われる子どもたちの変化

- 1) 普段はほとんどしゃべらない（しゃべれない）子どもたちの活動量がかなり増えた。しかし、報告書を書く段階では自分では書けないので、家で保護者が書いていたようだ。子どもたちは、その原稿を読めるように練習をしてきたことで、ポスターセッション本番で活発な発表に繋がった。
- 2) ルーブリックでは、すべての項目に「できなかった」とoをつけている男子児童がいた。そこで、一つ一つの項目について一緒に確認をしていくと、自ら「できた」にoを変更していた。この児童は、日本語力は②レベル、漢字を覚えるのは得意だが、自分の日本語力について「完璧でない」と自己評価が低かった。通常、教科書を開く授業ではつまらなそうにしていることが多いが、今回の授業では、日本語を使っている時間が普段よりも、自然とかなり多くなった。日本語力の大きな向上になったかどうかは見て取れないが、少なくとも、このプロジェクトの開始時にはあまり興味がなかった取り組み姿勢が、最後の発表の時間では、「僕もみんなも緊張していなくて、相手を見て発表できた」レベルへと変わった。また「友達の発表がいいなと思った。」とコメントし、振り返りシート内の「テキサスの色々な地域について知り、『特色』や『よさ』がわかった。」については、「少しできた」にoを移動した。今回の取り組み授業を通して、クラスへの帰属意識が高まったと思う。
- 3) 以前は、ほとんどワークシートに書くことをしなかった子ども達が、一人で、また、わからないことは、クラスメートの助けを借りながら、書いていた。また、ルーブリックでの自己評価も以前よりは、高かった。
- 4) それぞれのレベルで、日本語の発話回数が、以前よりは少し多くなった。

◆全体を通しての振り返り

- 1) 社会と国語の合科という扱いで、丸1ヶ月時間をかけたのが良かったと思う。毎週、少しずつ無理なく進められたと感じている。
- 2) 始めは「この活動指導案にはついていかれるか？（自分に指導できるか?）」と感じたが、最後までやり切れたので良かった。
- 3) 書くことと発表することの必要性は、日本語力向上には必要だと感じた。
- 4) 「自分で調べる→報告書を書く→その後発表練習をする→発表する」という繰り返しを通して、語彙や表現力が増した。そして、子たちにも「やった!」という達成感が生まれた。
- 5) 日本語力が低い子どもは、インプットが不足している。今回の授業ではインプットが多く与えられたと思う。アウトプット（自分の考えをまとめて書く）といのは、かなり高度なスキルになる。この単元を通して、どのレベルの子どもたちでも、新しい単語を一つでも覚えられたのであれば、それは日本語力の向上の第一歩になったと思う。